

(1)

新年号

昭和32年1月1日発行



静岡県富士市平塚279番地

富士市役所
富士市长遠藤脩治所
行印刷所
行印刷所

No. 18

昭和32年1月1日発行



年頭挨拶



年頭の辞



あけましておめでとうござい
ます。本年も相変わらずよろしく
御願いたします。
私は、日本人は世界に於て稀
に見る、驚くべき優秀な民族だ
と信じています。戦後十二年間
の復興振りが雄弁にこれを物語
っています。私は三十二年の年
頭に於て、先づこのことを思い
ます。

考えてみますと、日本の財界
は次第に好転しつつあります
し、三十二年の見通しも明るい
ようです。政府は一千億
円の減税を決定しましたから尚
更各人の機は暖かになりますよ
う。併し市町村の財政はこれと
一致いたしません。富士市は三

十年三十一年と窮乏の淵に追込
まれましたが、それでも議会其
他及事務当局の理解と協力によ
つて相当の事業を成し遂げて來
ましたが、三十二年の財政は昨
年比ではありません。國家が所
得税を軽減すればする程富士市
の歳入は減ります。市税賦課の
基準が所得税にあるからであり
ます。又昨年一工場であった
大工場の指定が、本年は市内
の三大工場に及ぶ模様で、こ

れは略確定のよう聞いて居
ります。これによる収入減も
又莫大なもので、富士市政を
預る私としては、如何にして
市民の幸福を伸すべきか、寝て
も醒めても念頭を去りません。
水道事業の推進、踏切問題の解
決、国民体育大会の開催、五ヶ
年計画の実現、富士市の前途に
は幾多の難関が横たわって居り
ます。私は素より満腔の誠意と
渾身の努力とを市政運営の上に
捧げることを覚悟して居ります

富士市長 遠藤脩治

けれども、それも無限に可能で
はありません。財政の状態はこ
れに険然に立ち塞りまして、大
きく限度を割します。三十二年
度富士市を如何にすべきか、私
は新市町村建設促進法に基き、
各界から衆智を擧げ、以て五ヶ
年計画の再検討を行い、猪突を
避け、慎重な研究討議によつ
て、富士市永遠の繁栄を策し、
その基礎を築こうかと今考えて
います。

永い間国民の待望せる日ソ国
交の回復、国連加盟等國際的に
輝かしい光明を得、これに加う
るに我が地区選出の石橋湛山氏
の自民党総裁の実現を見、内閣
総理大臣として政権を担当する
こととなり、茲に光輝ある新春
を迎えることにお目出度うござ
います。

年頭に当り過去一年間を静か
に回顧いたしまするに、経済界
は幾分景氣上昇の気運をみせつ
つ比較的平稳に推移しつつあ
り、対外的には国民待望の日ソ
交渉もようやく妥結いたしまし
て両国間に正常な国交が回復さ
れようとしており、また日本の
国際連合への加盟も承認され、
猶今後に残された懸案は多々あ

富士市議會議長 漆畑五十六

わが国の国際的地位も順次向上
しつつあることはまことに喜ば
しいことであります。そして歲
末に至り政界の変動を見、政局
は慌しく新展開をしたのであり
ました。

翻つて當市に於きましても部
分的災害は別として、重大な災
害事故等もなく、大体平穡な一
年でありますことは御同慶
の至りであります。

而して市の施策としての主

要事業は財政上の理由により
相当の制約を受けたことは止
むを得ざることは申しながら、
市民各位の要望に充分添
はれず、まことに遺憾に存する次
第であります。

市制施行以来ここに四年目を

迎えたのでありますが、この間
市の各種主要事業は順次推進さ
れ、市としての形態も逐次整備
されつつあるとは申しながら、
猶今後に残された懸案は多々あ

り、むしろ市繁榮の基盤となる
べき主要事業は今後にあると申
せましょ。

幸にして、経済界も順次好転
しつつあり、経済界の好転は必
然的に市財政にも好影響をもたら
すものと期待しておる次第で
あります。希望に満ちた佳き
年であれかしと心から祈念いた
すものであります。

当市議会は石橋内閣実現を契
機として、この好機を逸すること
を覺悟でございます。

市民各位におかれましても私
共の意のあるところを諒とせら
れ、市發展のための大局的見地
より格段の御協力御支援をお願
い致しまして年頭の御挨拶とい